



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

三位一体の主日 B年(2024年5月26日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：申命記 4章 32—34、39—40節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 8章 14—17節

福音朗読：マタイによる福音書 28章 16—20節

父と子と聖霊の名によって

聖霊降臨の次の日曜日は三位一体の主日となっています。今日の福音朗読の最後の方にある言葉に注目してください。

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、」(マタ 28章 19節)

この箇所「名によって」について、すこしこだわってみましょう。ギリシア語から直訳しますと、「父と子と聖霊に名の中へ彼らをバプテスマ(洗礼)して」となります。

「～の名の中へ」は、その名で呼ばれている方に属する者となることを意味します。洗礼はイエスさまの名によって、イエスさまの名のもとに行われます。それは、イエスさまに属するものとなることなのです(使 8章 16節、2章 38節参照)。

そして、ここで言う、父と子と聖霊の名の中へとは、さらに一步進んで「父と子と聖霊」に属する者となるという意味と考えてよいでしょう。

今日の福音朗読では、疑う弟子たちの姿が描かれています。弟子たちは復活のイエスさまに出会ってもまだ信じられませんでした。それでもイエスさまは、弟子たちを宣教へと

送り出します。ここに疑いが残っていたとしても、彼らは宣教へと向かう旅の道すがら、イエスさまがともにいてくださることに気がつくでしょう。こうして、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(20節)というイエスさまからのお約束は実現していくのです。そして弟子たちは、ともにいてくださるイエスさまご自身が疑いを一つひとつ晴らしてくださることに気がつくのだと思います。こうして、宣教する中で、次第に信仰者、すなわち信じる者へと変えさせてもらうのです。

現在開催されているシノドス 世界代表司教会議 第16回通常総会では、教会の使命が宣教であること、そして、洗礼を受けた人はだれでも宣教者であることをもう一度確認しています。宣教とは、イエスさまのようにこの世で生きることです。あるいは、すでにイエスさまのようにこの世で生きている人々と出会うことです。宣教は、父と子と聖霊の三位一体の神のわざなのです。

今日、瀬田教会は5月の最後の日曜日で「マリア祭」をお祝いしています。イエスさまが天に昇られて、マリアさまは弟子たちと一緒に、イエスさまが約束して下さった聖霊を待ち望みます。弟子たちの集いの真ん中で、マリアさまは聖霊を待ち望む祈りを献げました。祈りながら、マリアさまのところが少しずつ変わっていったかもしれません。マリアさまは、神さまが父なる神さま、ひとり子であるイエスさま、そして愛である聖霊さまであることに何となく気がついていったのだと思います。つまり、父と子と聖霊の三位一体の神さまを最初に感じたのはマリアさまだったのではないのでしょうか。

そして、ともにおられる神を豊かに感じながら、マリアさまは生涯を終えたのです。天にあげられた後は、天国で父と子と聖霊の神さまを間近に見ながら、わたしたちのために執りなしの祈りを献げておられるのです。マリアさまの祈りの深いところには罪人であるわたしたちが、それでもなお、父と子と聖霊の三位一体の神さまを感じますように、導かれますようにという願いがあるのです。